

モンガク沢

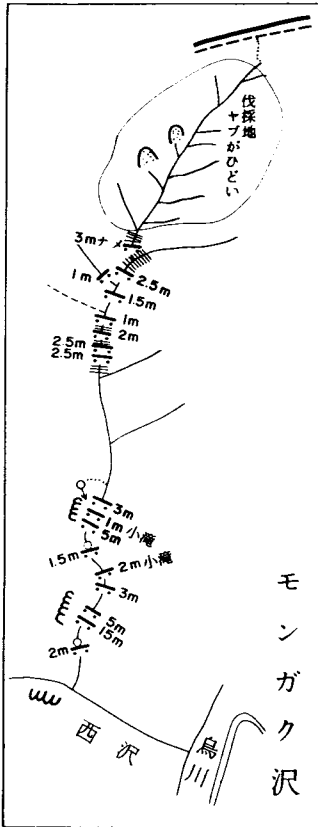
L_二

一九八二年七月一九日

下り始めて一〇分程すると、ヤブがひどくなってくる。伐採跡地である。背丈程のヤブが前進を妨げる。一時間悪戦苦闘して、やっと抜け出した。すぐに二俣。小休止してヤブごぎの疲れの回復に努める。

二俣前後の小滝が続く。少し間をおいてF5三俣。ここは右岸をアップザイレンにて降りる。すぐ下のF4は、左岸をクライミングダウン。初心者である白石、佐藤にはアップザイレンにて下降させる。
少し下って、両岸がガケになった所にF2、F1がある。ここが地図

上の滝記号がある所だ。F2は、右岸をアップザイレン。F1はクライミングダウンできそうにも思えたが、右岸をアップザイレンにて降りる。この二つの滝を一緒に捲く跡が左岸についているので、これを使う方



モンガク沢の下降

が簡単である。

前方が明るくなってくると西沢出合。そして、その先五分程で鳥川に出る。林道に登る道があったので、

西 沢

一九八三年七月一日

尾根から三分程で西沢に降りる。上部は見渡す限りナメである。二三分程の小滝を確認してまずは昼食とする。

一一時三五分、下降開始。ナメが続く。途中、倒木があり歩きづらい場所もあるが、全体的にはナメである。

下降をはじめから三五分で左から沢を合わせる。二対三で右沢の方が水量が多い。右沢もまたナメであ

これを使って上にでた。

(記)

「タイム」 下降開始(一一:四五) ↓
鳥川(一五:〇〇)

る。右岸からルンゼが二本入る。それを過ぎると、釜と小滝の連続する比較的明るいゴルジュとなる。スケールは小さいが美しい。

ナメが終わり、広い河原となる。

左岸のガレ場は大きくえぐられてい
る。次に三つの滝
が出てくる。右岸
をアップザイレン
で降りる。登りの
時は右岸のバンド

を利用して越えることができそうである。

三〇分程で四つ、五つと滝が出てくるが、いずれもクライミングダウンで降りられる。

一三時一五分、モンガク沢と出合
い、まもなく鳥川に出る。下降に一
時間五〇分を要した。

(記)

「タイム」 下降開始(一一:三五) ↓
鳥川(二三:二〇)

